

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

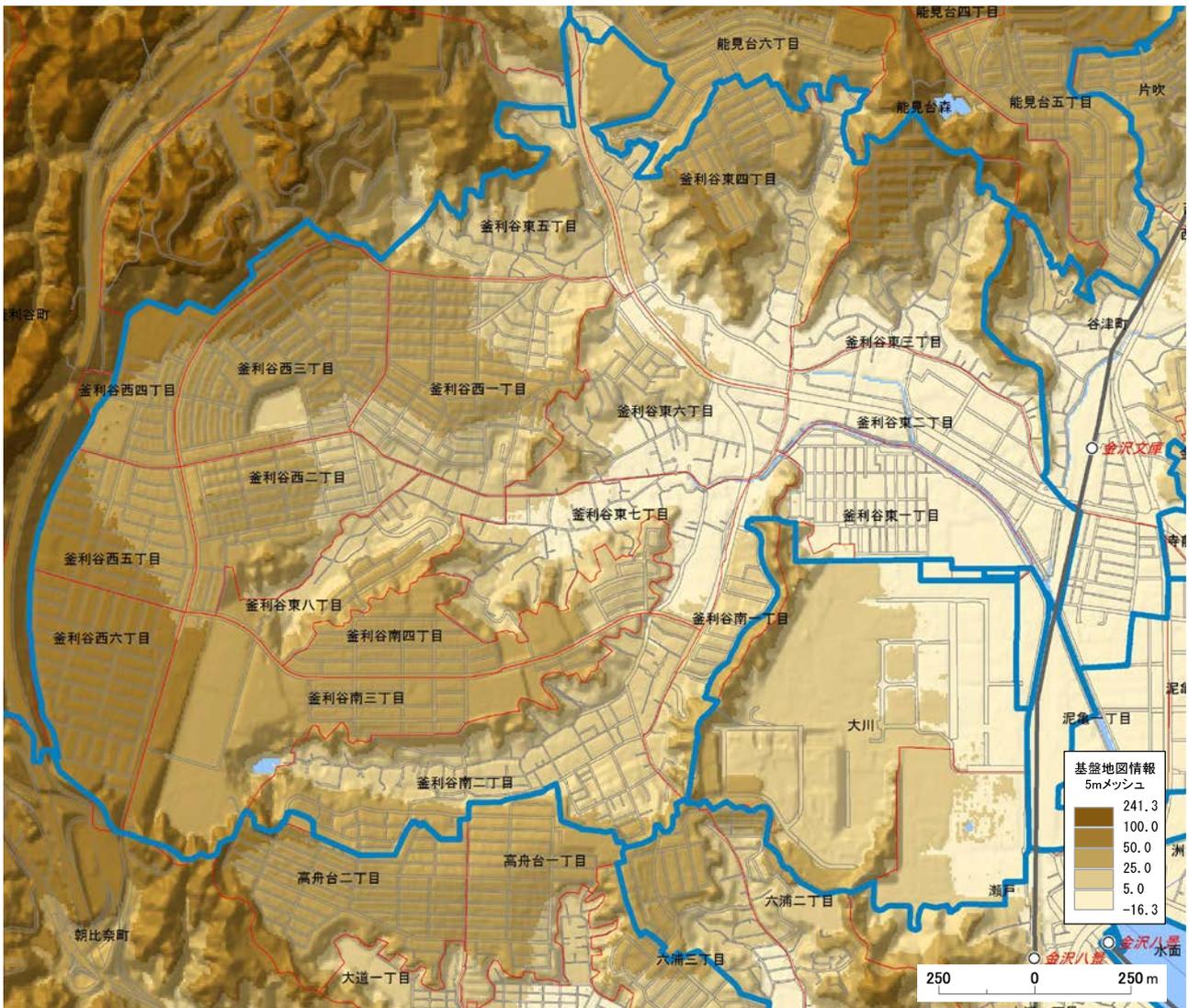


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	32,772	32,018	31,510	▲ 754	▲ 508	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	4,082	3,913	3,846	▲ 169	▲ 67	12.2	12.2	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	1,566	1,549	1,419	▲ 17	▲ 130	4.8	4.5	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	22,102	19,566	18,144	▲ 2,536	▲ 1,422	61.1	57.6	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	1,903	1,660	1,650	▲ 243	▲ 10	5.2	5.2	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	6,901	5,818	4,834	▲ 1,083	▲ 984	18.2	15.3	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	7,172	8,539	9,520	1,367	981	26.7	30.2	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	4,247	4,775	4,664	528	▲ 111	14.9	14.8	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	2,925	3,764	4,856	839	1,092	11.8	15.4	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	13,677	13,972	14,272	295	300				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.40	2.29	2.21					2.29	2.10

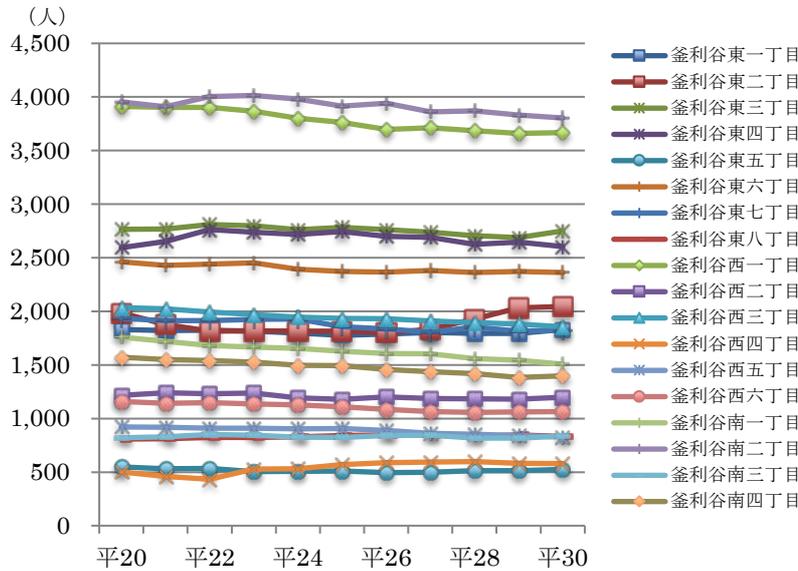
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向

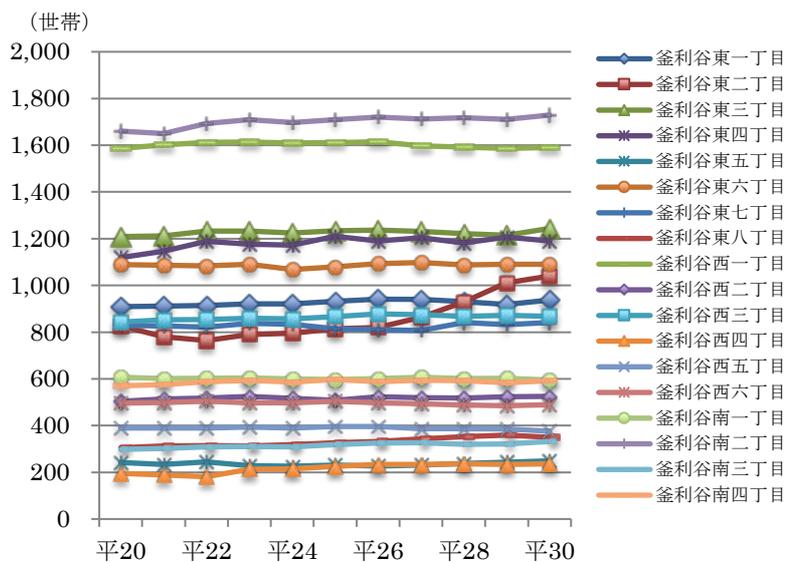


釜利谷地区には、平成30年9月末現在約31,510人が暮らしています。世帯数は約14,270世帯、平均世帯規模は2.21人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口は減少が続いています。一方、世帯数は増加しています。

世帯規模は、縮小する傾向が続いています。平成30年の平均世帯規模は市の平均(2.10人/世帯)を上回り、金沢区の平均(2.29人/世帯)を下回る規模になっています。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向

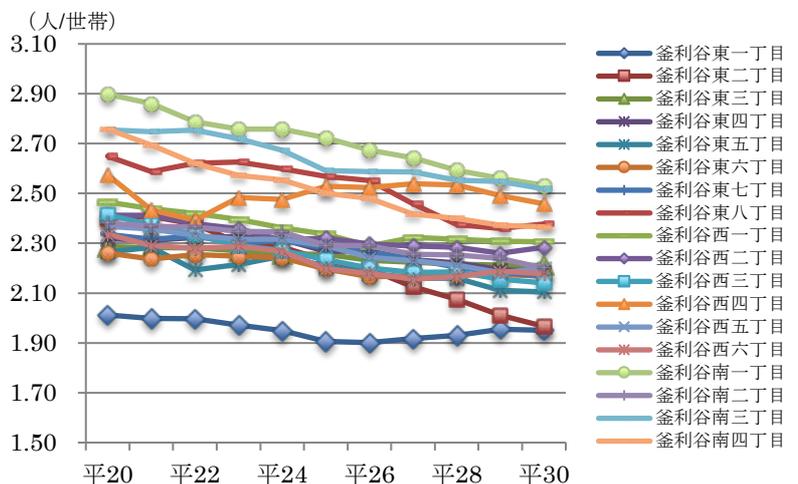


平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は30.2%で市平均(24.2%)、区の平均(28.9%)をともに上回っています。高齢化率は5年間で約3.5%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)の減少が続いていますが、比率は区の平均に近く安定しています。

15～64歳の人口(生産年齢人口)の減少は続いており、比率も低下しました。(表1参照)

図4 町丁別平均世帯規模の動向



釜利谷地区には、18町丁が含まれています。

人口は、釜利谷東二丁目に増加の傾向がみられますが、全般的に安定又は緩やかな減少傾向になっています。(図2参照)

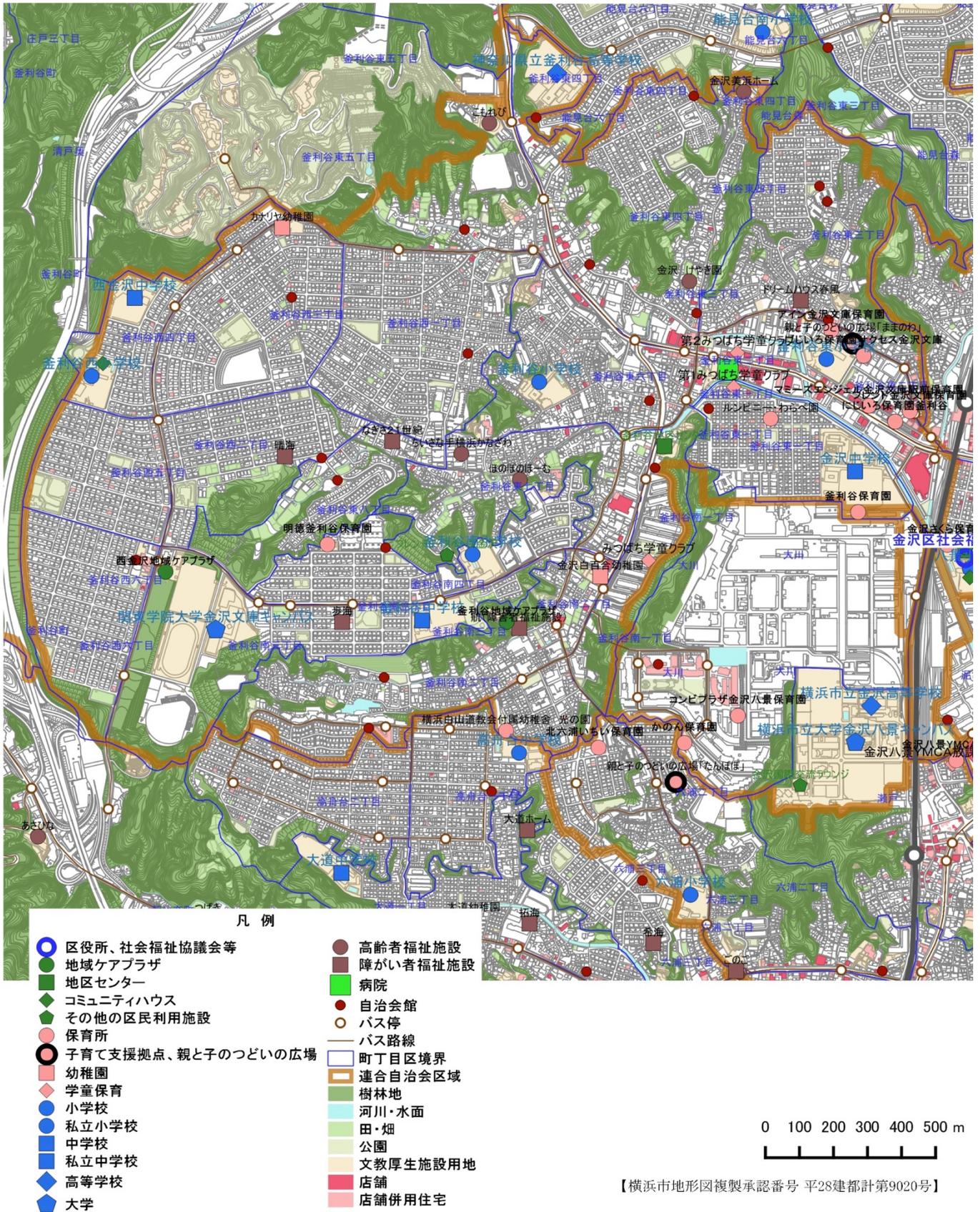
世帯数は、釜利谷東二丁目でも緩やかに増加する傾向がみられますが、他の町丁は概ね安定しています。(図2.3参照)

釜利谷東一丁目、釜利谷西四丁目など世帯規模が大きくなる町丁がありますが、全般的に規模が縮小する町丁が多くなっています。(図4参照)

3. 地域の施設等の分布状況

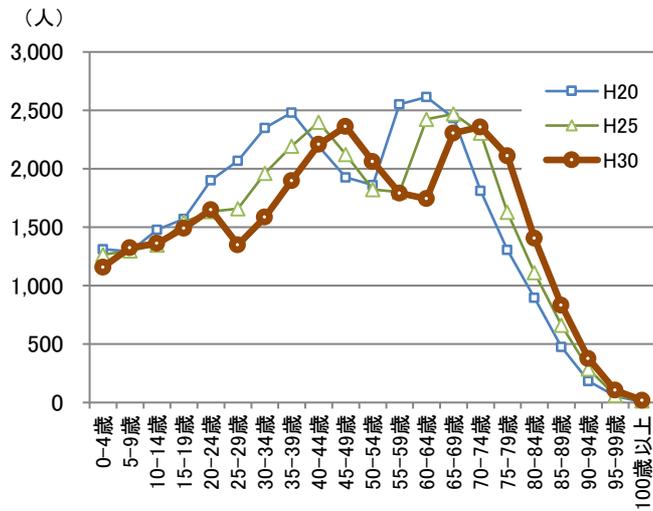
図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



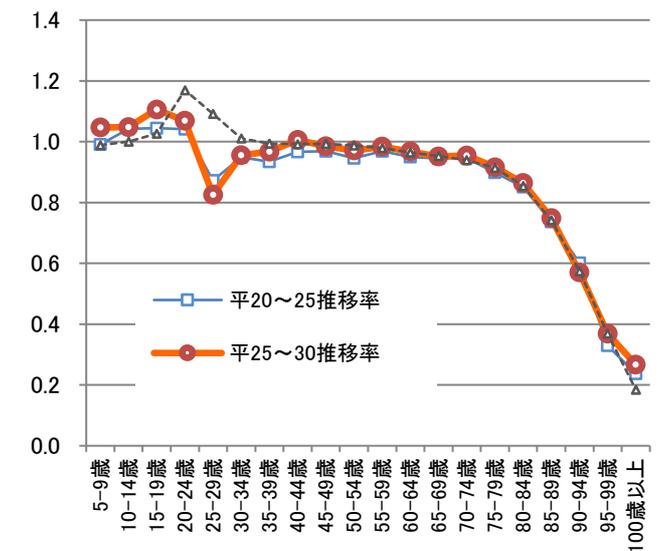
4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化



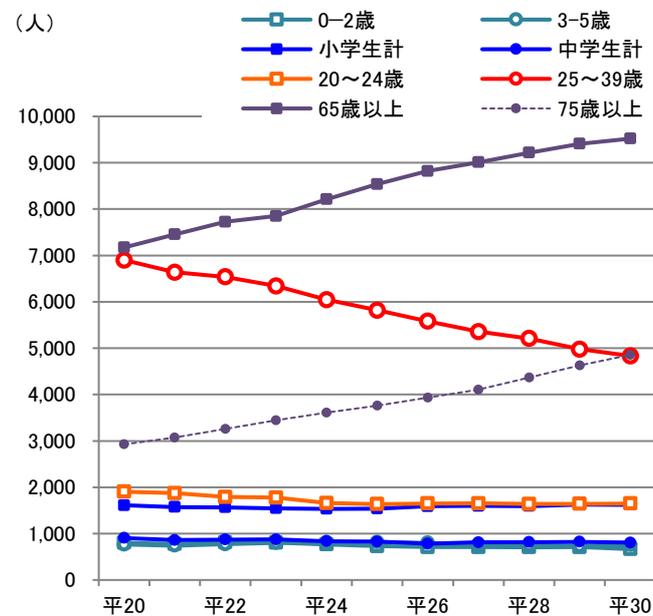
*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

図8 年齢別人口の変化



釜利谷地区は65～74歳と40～54歳代の人口が多くなっています。(図6参照)

25～29歳の転出による減少傾向が続いていますが、25～44歳と5～24歳の推移率が上昇しました。

人口移動は転入を転出が上回る傾向が続いていますが、転出入の差が小さくなり、人口の減少も収まる傾向がみられます。(図9参照)

平成28年の社会移動をみると、25～29歳の社会減少は変わらないものの、30歳代前半で続いていた社会減少が平成25年には社会増加に変わったことがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

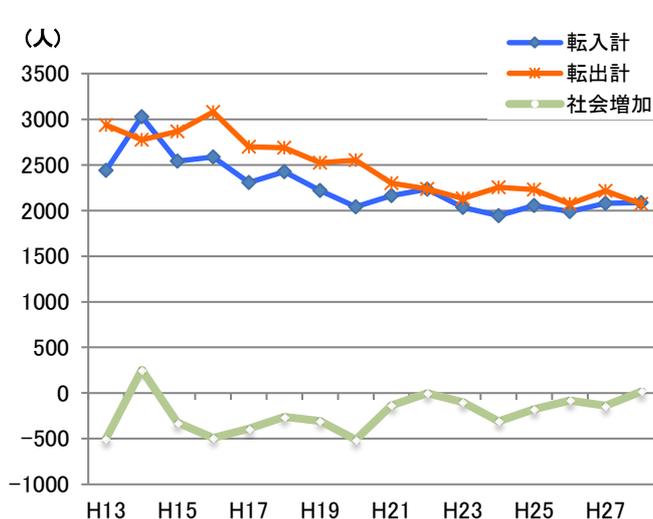
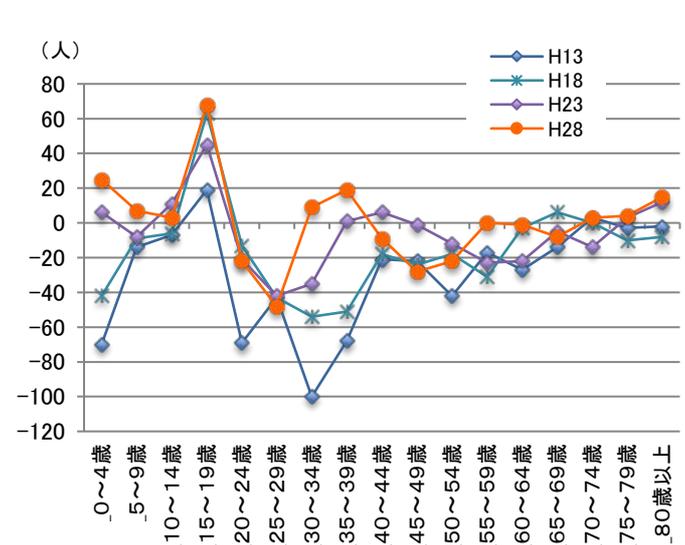


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

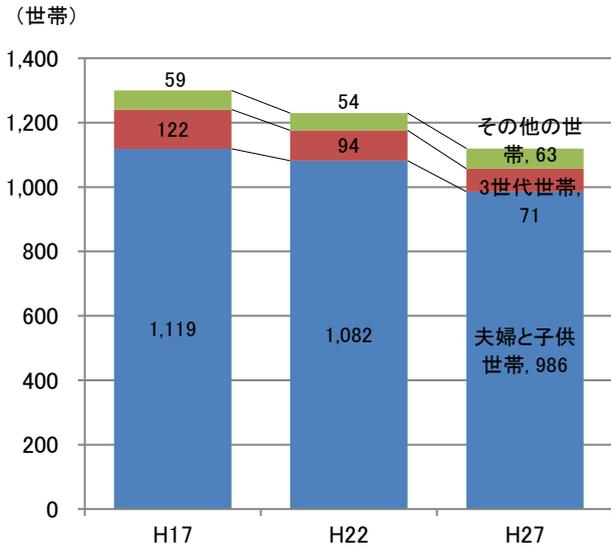


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

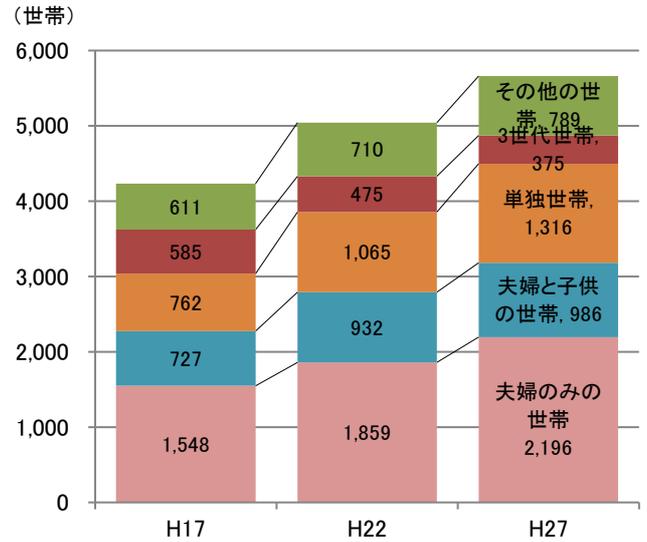


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

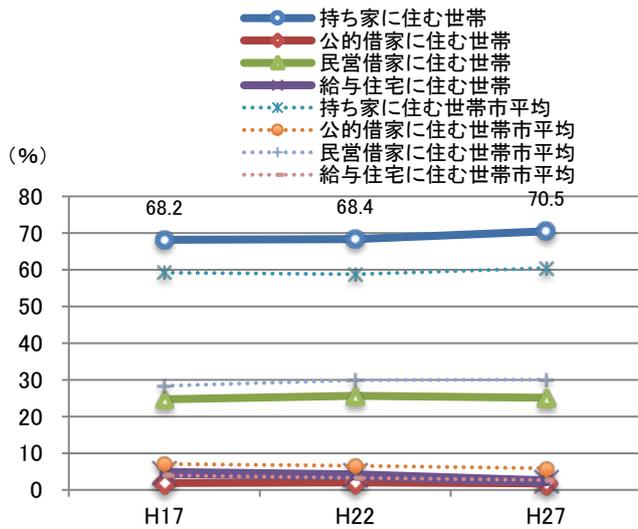


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

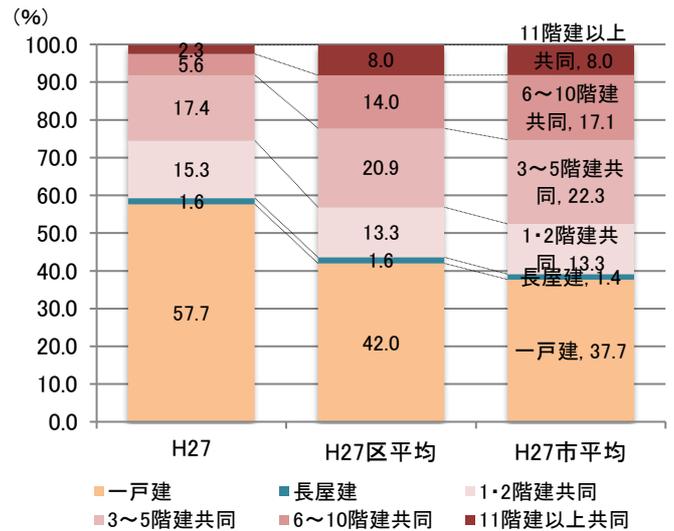


図 15 規模別世帯の動向

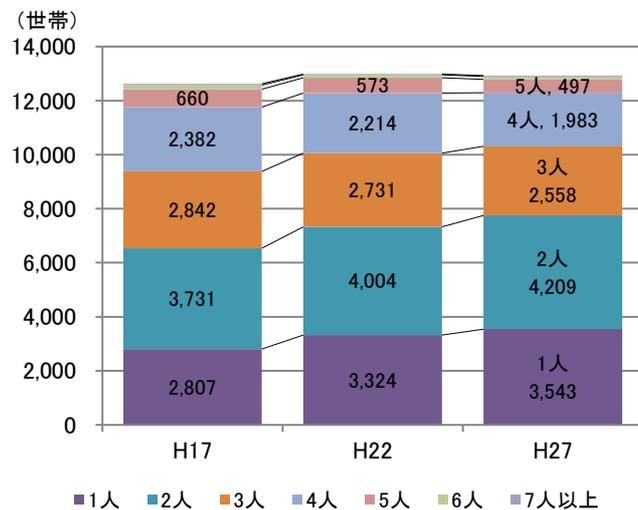
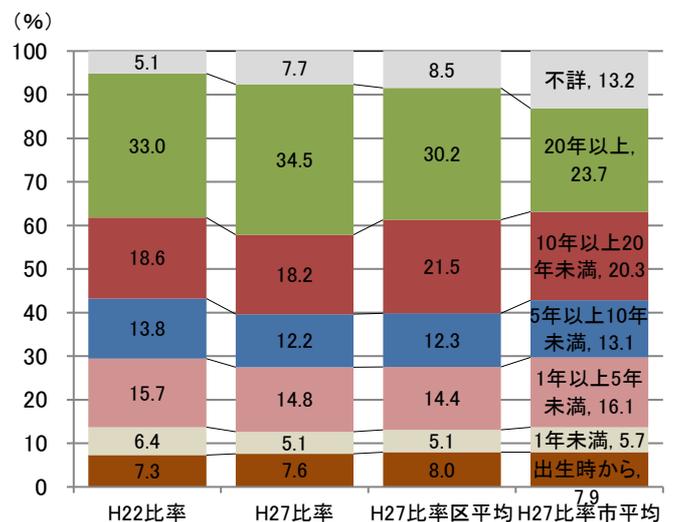


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数(男性高齢者)	高齢独居世帯数(女性高齢者)	高齢者のみ世帯数(単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数(高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	635	1,698	2,274	4,122
対世帯総数比率(%)	4.4 (区平均 4.8)	11.9 (区平均 11.7)	15.9 (区平均 14.3)	28.8 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	15.4 (区平均 17.9)	41.2 (区平均 43.4)	55.2 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

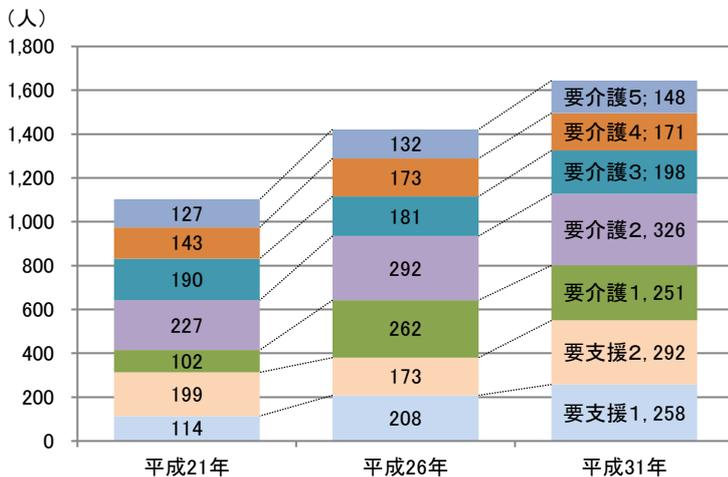
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	1,644	258	292	251	326	198	171	148
人口比(%)	5.24	0.82	0.93	0.80	1.04	0.63	0.55	0.47
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	15.69	17.76	15.27	19.83	12.04	10.40	9.00
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

釜利谷地区は金沢文庫駅の西側に広がる住宅と金沢区南西部の丘の上に開発された住宅地が中心の地区です。

戸建て住宅に住む世帯は58%を占めており、区の平均(42%)を大きく上回っています。(図14参照)

また、持家に住んでいる世帯は約71%、民間の借家に住む世帯は約25%です。区の平均に比べて持家の比率が高く、民間の借家に住む世帯の比率が区平均に比べて少なくなっています。(図13参照)

居住期間が長い人が多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「20年以上」(約35%)、「10年以上20年未満」(約18%)で、「20年以上」が多く区の平均を大きく上回っています。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は減少が続いています。

6歳未満の子どもがいる世帯は平成27年で1,120世帯で、世帯総数(12,930世帯)の約9%を占めています(区平均は約8%)。このうち約88%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は増加が続いています。高齢者の単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約5,660世帯で、世帯総数の約44%を占めています。区平均を上回っています(区平均は約41%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約39%、高齢者の単独世帯は約23%です。(図12参照)

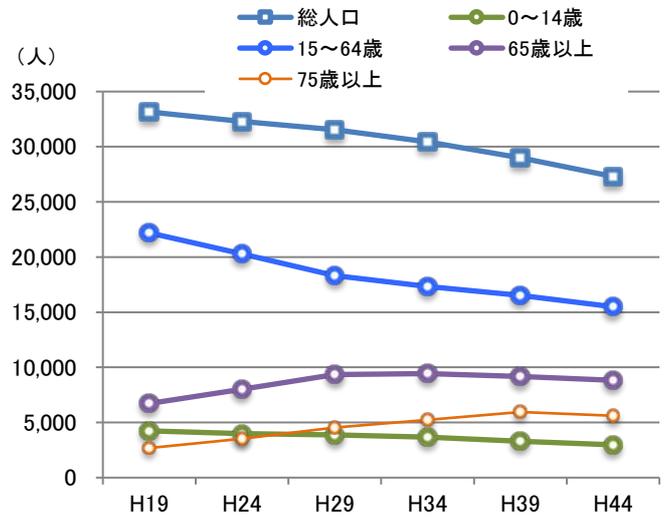
平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約45%で、区の平均(約43%)を上回っています。(表2参照)

また、要介護認定者の人口比率は約4.8%で、区の平均(約4.7%)を上回っています。(表3参照)

現在の年齢5歳別の人口の変化の傾向が続くと、今後も緩やかな人口減少が続きます。

既に高齢化率が高くなっています。今後高齢期を迎える人口が少ないので、65歳以上の人口の増加は鈍化しますが、75歳以上の人口の増加はつづきます。(図6、7、18、19参照)

図18 人口の動向と推計



*平成24~29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率

